

沼津工業高等専門学校

運営諮問会議報告書

(令和 7 年度)



令和 8 年 2 月

沼津工業高等専門学校

運営諮問会議

目 次

I. 会議次第.....	3
II. 議事要旨.....	5
III. 学校概要 説明資料.....	13
IV. 諮問事項 説明資料	
1. 令和6年度自己点検・評価および 令和7年度年度計画について.....	24
2. 本校におけるいじめ防止対策と現状について.....	31
3. 数理・データサイエンス・A I 教育の実施について.....	36
V. 校内視察.....	42
VI. 会議規則.....	44
VII. 委員名簿.....	46

I. 會議次第



令和 7 年度 沼津工業高等専門学校 運営諮問会議次第
令和 7 年 1 2 月 1 2 日（金） 1 3 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0（予定）
於 沼津工業高等専門学校 管理棟 3 階 大会議室

13:10 校内視察

起業家工房「クリエイティブ・アトリエ」ワークスペース
(地域創生テクノセンター 1 階)

授業参観 電子制御工学科 4 年「電子機械設計・製作Ⅱ」
(電子制御工学科棟 1 階)

学生支援ゾーン (共通棟 1 階)
(休 憩)

14:00 会議

校長挨拶

運営諮問委員紹介

学校関係者紹介

学校概要説明

議長選出

議題 1 令和 6 年度自己点検・評価および令和 7 年度年度計画について

議題 2 本校におけるいじめ防止対策と現状について

議題 3 数理・データサイエンス・A I 教育の実施について

その他意見交換

校長挨拶（謝辞）

16:00 閉会



○会議資料

(PDF ファイル)

- ・資料 1 運営諮問会議規則
- ・資料 2 運営諮問委員一覧
- ・資料 3 議題 1 ～ 3 の諮問概要

(パワーポイントファイル)

- ・学校概要説明資料
- ・議題 1 ～ 3 の各ファイル 3 件

○参考資料

- ・[学校概要 2025 版](#) (A4 サイズ 冊子体)
- ・[NC TODAY 2025 版](#) (A4 サイズ 冊子体)
- ・日刊工業新聞 10/1 付高専特集号 (A4 サイズ 冊子体)
- ・静岡新聞 沼津高専新聞広告特集 (ブラケット判)
- ・日本経済新聞 11/26 付 高専特別版 (ブラケット判)

Ⅱ．議事要旨



令和7年度沼津工業高等専門学校運営諮問会議 議事要旨

日 時 令和7年12月12日（金）14時～16時

場 所 沼津工業高等専門学校 管理棟3階 大会議室

出席者 運営諮問会議委員（敬称略）

塩尻 信義 （国立大学法人静岡大学
理事（教育・附属学校園担当）／副学長
西山 充彦 （株式会社明電舎 沼津事業所長）
小久保 光典 （芝浦機械株式会社 常務執行役員 R&D センター長）
赤堀 篤 （静岡県工業技術研究所 沼津工業技術支援センター長）
河合 隆徳 （沼津工業高等専門学校地域創生交流会 会長）
後藤 純緒 （沼津工業高等専門学校同窓会 会長）

本校教職員

岡田校長、稲津副校長（総務主事）、芹澤校長補佐（教務主事）、
佐藤（誠）校長補佐（学生主事）、大久保校長補佐（寮務主事）、
竹口校長補佐（専攻科長）、芳賀校長補佐（ダイバーシティ担当）、
永禮機械工学科長、小村電気電子工学科長、大庭電子制御工学科長、
鈴木（康）制御情報工学科長、古川物質工学科長、鈴木（久）教養科長、
塚本事務部長、持田総務課長、前田学生課長

※会議当日は業務の都合でご欠席の三矢委員（駿東地区校長会 会長）は、本校副校長が別途訪問し、議題1～3についてのご意見を伺いました。



○校長挨拶

会議に先立ち校長から、創造的で実践的な技術者の養成を使命とする高等専門学校として、各専門分野の基礎から応用まで教育すること、研究と地域貢献と教育を関連付けることで人材養成を行っていること、また高専は社会や時代の要請に応えることを求められることから外部の意見を伺いながら教育内容を継続的に改善していること等、本校取組の紹介があった。続いて、本会議は産官学の外部有識者の方々にご意見を頂戴する年に1回の大変貴重な機会であり、校長からの現状と課題の説明に続き、担当から用意した3つの議題について説明し意見を伺うこととしている旨の手順の説明と、委員に対し忌憚ない意見をお願いしたい旨の挨拶があった。

○運営諮問委員紹介、学校関係者紹介

司会より、参加者の紹介があった。

○学校概要説明

校長から資料に基づき、静岡県東部で唯一の高等教育機関である本校の立地や環境、ガバナンス体制、倍率の減少傾向が続く入試状況と受験者出身地等の客観的数値に基づく分析、学生寮改築や起業家工房設置などの環境整備、コンテストを中心とした学生の活躍状況、起業家工房「クリエイティブ・アトリエ」でのスタートアップ教育やアントレプレナーシップ教育、地域創生テクノセンターを軸とした地域連携、静岡県のファルマバレープロジェクトの一環として開講する特別課程 F-met、地域の小中学校への理科教育、数学教育への協力等の紹介と、令和9年度を予定している現行5学科から1学科4学類への学科改組と地域志向型・学類横断PBL教育について説明があった。

続いて、本校における現状の課題として志願者減、低い女子学生割合、建物やファシリティの老朽化等の説明があった。

○議長選出

運営諮問会議規則第5条第1項に基づき、委員の互選により国立大学法人静岡大学理事（教育・附属学校園担当）／副学長の 塩尻信義 委員が推薦され、承認された。

議長から議長就任の挨拶に続き、各諮問事項の進め方について説明と協力依頼があり、議事に入った。

○議題1. 令和6年度自己点検・評価および令和7年度年度計画について

副校長（総務主事）から資料に基づき、教育の内部質保証のために実施する自己点検・評価について、本校が設定した項目による自己点検・評価、評価機関による外部評価、及び本会議のように外部有識者による評価の3つの仕組みについて、それぞれ、

- ・自己点検・評価：外部評価機関の作成する点検項目に基づく重点的項目、高専機構年度計画に基づく項目について各部署が実施し結果を点検評価する。

- ・外部評価機関による評価：高等専門学校機関別認証評価を定期的に受審し、教育活動の内部質保証システムの確立・充実を図る。今年度受審した。
- ・外部識者による評価：本会議において、外部委員から意見を聴取し、改善に反映する。との説明があった。

続いて、本校の自己点検・評価体制の実効性を高めるため、ステークホルダーからの聴取意見の活用と、学生の学力向上に資する教育内容について、委員に対し諮問があった。

これを受け、議長から各委員に対し意見照会があり、各委員からは主に次のような意見があった。

- ・アントレプレナーシップ教育の学校の取組についてもう少し説明して欲しい。
→学科間の温度差はあるが、PBL教育は様々な授業科目で取り入れている。学科改組後は地域志向プロジェクトなど既存の取組を全学生が受けられるよう拡充する予定である。
- ・起業した学生が数人いることは伺っている。アントレプレナーシップを育む教育は重要であり、これら起業した学生の活動を紹介する機会を設けることで、低学年層の意欲向上につながるのではないか。
- ・大学や高専は閉じた世界であり昔の慣習に囚われがちで、企業以上に外部の声を重要視すべきではないか。企業では社外取締役は社内取締役の倍くらいいる。また、学校は学生という存在がある。外部評価や監査時だけでなく、企業・学生・卒業生からの意見を定期的に収集し、改善に反映する仕組みを強化すべき。特に学生の声を重視することが重要ではないか。
- ・議題3にも関連し、データサイエンスやAI教育の充実は不可欠だが、ものづくりの基盤を軽視すべきではない。ハードウェアとデータ技術を融合した教育を維持・強化することが、日本の競争力確保に不可欠で、高専こそ、この教育ができるのではないか。
- ・情報セキュリティについて、ガバナンス体制でリスク管理という教職員の観点では整備されているようだが、学生に対する情報セキュリティ教育はある程度自由にさせてやる必要はあると思うが、AI利用やデジタル化に伴うリスク管理を徹底する教育が必要ではないか。
- ・PDCAサイクルの継続強化として、外部評価で指摘された課題を翌年度計画に確実に反映し、フォローアップを徹底することが重要ではないか。
- ・PDCAサイクルを実行することや改善の有無全般にあまりとらわれず、本校のミッションに応じた成果がどのようになっているかをよく検討して計画等を策定することがステークホルダーの満足度を高めることに繋がると思う。

これら意見を踏まえ、議長から次のとおり答申があった。

- ・学生・卒業生・企業等ステークホルダー意見を定期的に収集し、改善に反映する仕組みを整備し活用強化してもらいたい。

- ・データサイエンスやA I 教育を推進しつつ、ものづくりの基盤を維持・強化し、両者を融合した教育を展開してもらいたい。
- ・学生に対しても、情報セキュリティ教育の徹底デジタルリスク管理を含む教育を充実させてもらいたい。
- ・外部評価結果や委員の意見を反映し、P D C A サイクルを確実な運用し改善の実効性を高めてもらいたい。

○議題2．本校におけるいじめ防止対策と現状について

校長補佐（学生主事）から資料に基づき、本校のいじめ防止等の基本計画として、いじめの未然防止、早期発見、事後対処を総合的かつ効果的に推進するため、対策ポリシー、防止プログラム、早期発見・対処マニュアルの3つで構成される「いじめ防止等基本計画」について、アンケートや相談窓口の周知等の防止プログラムを中心とした説明と、日常的な対応の状況について説明があった。

続いて、本年度10月に実施した学生への調査アンケートの質問内容と結果について、次のように説明があった。

- ・今年度のアンケート結果では、いじめを受けていると回答した学生は33名、知っているとして回答した学生は19名、無記名は17名であった。誤記もあるため担任から確認後対応している。
- ・重大事案2件（うち1件は対応済、1件は継続対応中）、その他4件を委員会で扱った。
- ・件数増加の背景には、保護者からの通報増加やSNS絡みの事案がある。SNSは発信者特定が困難で、警察も事件性がない場合は対応が難しい。

これらに対する外部から見た評価と、本校の対策の方向性について、委員に対し諮問があった。

これを受け、議長から各委員に対し意見照会があり、各委員からは主に次のような意見があった。

- ・相談窓口の2次元コードは全て、学校内の関係者へ届くのか。
→学生には分からないようにしているが、学内の複数の教職員に届くようにしている。事案毎に分けた設定にしている。
- ・学内窓口に加え、外部窓口の設置を検討すべきではないか。企業では外部顧問弁護士等を活用しており、学校でも匿名性・安心感を高める工夫が必要と考えられる。
→保護者からは、高専機構本部や、勘違いして教育委員会に連絡があった例もある。近年マスコミでも取り上げられていることもあり、連絡件数は増えている。
- ・通報が多くて苦慮されていると思う。当社の場合もハラスメントの通報があるが、情報共有とコミュニケーションがとれていれば問題なかった例もある。どこまでが指導でどこからがハラスメントか、管理職への教育も定期的に行う取組は行っている。
- ・昨年より増加しているとのことだが、原因は何か。また不登校が発生していないか伺い

たい。

→増加の要因として、あだ名等、言う側と言われる側の考え方の違いや、SNSを原因とするもの等が挙げれる。また不登校はいないが、一時的に休養させ授業はリモートで対応した。SNSでの誹謗中傷や悪口は事件性が低く、警察でも対応が困難とのことで対応が難しい。

・会社では内部通報が多い。学校でも他の人からの通報を重視してあげてはどうか。

→他の学生からの通報については、情報提供者へ具体的にヒアリングした上で、場合によっては直接本人に聞くこともあるが、知らなかった方がよかった場合もあるため、状況に応じて対応している。

・アンケート未回答者へのフォローも必要ではないか。また、外部窓口を設けて周知することも必要ではないか。

→以前、校長からも同様に指導を受けており、未回答者を把握し、関係部署で気になる学生は学校側からアクションを起こしているが、それで全て対応できてはいないと考えており、引き続き検討していきたい。

これら意見を踏まえ、議長から次のとおり答申があった。

・いじめの対応は丁寧に行われていると思われる。保護者対応はいろいろ苦労されていると思うが、丁寧に対応いただきたい。

・企業と学校では異なるかもしれないが、学内窓口に加え、外部窓口の設置を検討してはどうか。

・秘匿性を守りつつ、必要なメンバーで情報共有をお願いしたい。

・いじめを100%防止は不可能で、コミュニケーションを充実させ、学生、教員、保護者の信頼関係を構築してもらいたい。

・アンケート未回答者等への丁寧なフォローアップをお願いしたい。

○議題3. 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの実施について

校長補佐（教務主事）から資料に基づき、AI戦略2019に基づく文部科学省の数理・AI・データサイエンス教育プログラム認定制度について、デジタル時代の「読み・書き・そろばん」として高専機構本部から令和7年度中に認定必須とされており、本校は「リテラシーレベル」を令和5年度に、「応用基礎レベル」を本年8月に認定に向けていることと、取組の概要として専門部会を立ち上げPDCAサイクルを回していること、リテラシーレベルは1年生で3科目、全学年での10科目を構成し、PBL学修科目として4年生の授業「社会と工学」、5年生の授業「社会と産業」にAI・データ活用要素を組み込み、全学生が実践的な学びを経験できるようにした旨の状況説明があった。

続いて、アンケート結果として「とてもわかりやすかった」「楽しかった」「理解できた」等のポジティブな回答が増加傾向であり、理解できなかった学生はゼロで関心度も高かったこと、自己評価としてはリテラシーレベル、応用基礎レベルともA～S評価だが、外部有

識者の意見反映を本会議の結果が未反映のためBとしている旨の説明があり、これら教育プログラムの内容や取組について、委員に対し諮問があった。

これを受け、議長から各委員に対し意見照会があり、各委員からは主に次のような意見があった。

- ・A I やデータサイエンスの範囲は広いと思われるが、リテラシーレベル、応用基礎レベルのガイドラインなどはあるのか。

→ガイドラインはある。リテラシーでは概論、応用基礎では実際にA I を使う。現カリキュラムで全学生が受ける4年生の「社会と工学」、5年生の「社会と産業」に組み込むことで対応している。

- ・A I は会社内部でも対応に四苦八苦しており、入ってくる学生の方がレベルは上でポイントは高い。ただ、高いのがA I だけで他の部分は教育が必要となっている。先ほどの繰り返しになるがA I 活用とものづくりの両方、応用編のブラッシュアップはお願いしたい。

→学科改組は、3年生までに読み・書き・そろばんとしてのデータサイエンス・A I の基礎と応用を習得させる授業科目を設け、その後で機械、電気や化学等各専門のものづくりでの応用を目指すという想定で計画している。

- ・昨年度の本会議の結果を受け改善した部分はあるか。

→昨年度は、A I は大事だが人間重視で取り組むべき、とのご指摘をいただいたかと記憶している。これについては授業担当者とも共有し、リテラシーレベルで徹底して教育している。

- ・当社の現状は、情報システム部門が全従業員にデジタルリテラシーを教育している状況である。高専からは電気、機械分野を中心に受け入れているが、リテラシーから応用基礎まで学修した学生ならば生産現場としては非常にありがたく、今後も進めて欲しい。
- ・非常に苦勞してカリキュラムを組まれていると推測する。先にすべき歴史や基礎原理が5年生の授業となっているが、順番は見直しを検討してはどうか。
- ・情報関連の教育について、入学後のフォローアップが必要な状態の学生も少なくないと認識は持ち続けてほしい。

これら意見を踏まえ、議長から次のとおり答申があった。

- ・企業でもA I 活用は極めて重要になっており、学科改組でのカリキュラム改訂も踏まえ、学習の順序を整理してこのプログラムを充実・発展してもらいたい。
- ・企業現場からの意見も踏まえ、ものづくりと融合したプログラムとしてもらいたい。
- ・学生へのアンケート実施はいい取組であり、結果としても成果の上がった良いアンケート結果となっているので、ステークホルダーとしての学生からの意見として、議題1の内部質保証に成果として加えてはどうか。この結果を、他の授業や学校運営にも生かしてもらいたい。



○その他

議長からその他について照会があり、次のような意見交換があった。

- ・授業は初めて拝見したが、非常に新鮮だった。特に、大学とは違い学生の主体性を考えたプログラムであると感じた。沼津高専ならではの取組を発展させて欲しい。
- ・議題2の関連で、悪いことの通報窓口はあるのか。当社は秘匿性に留意しているため、ここから情報があがってくることが多い。秘匿性をしっかりしてほしい。
- ・沼津高専では、専攻科1年生が前期の半年間、課題解決型学習としてF－m e t 修了生企業と連携し、浜松医科大、県立こども病院、名古屋大医学部の医療現場のニーズを聞き製品化を検討する取組を行っている。新しい委員に改めて紹介する。

○議事終了

以上の諮問に対する答申をもって議長から議事を終了する旨の発言があり、議長職が解かれた。

○校長挨拶（謝辞）

会議終了に際し校長から、議題2について、高専生は大学生と比較し学齢が低く、中等教育機関と誤認する保護者も多い。第三者通報窓口のご意見があったが、いじめの問題は結果的に通報者が分かってしまう例が多く、引き続きよりよい仕組みを検討したいこと、議題1について、本年度機関別認証評価を受審した結果、自己点検・評価のシステムは整備できてきたが属人的にならないよう取り組んでいきたいこと、議題3については、学科改組も踏まえ、効率的な授業編成により他に様々な取組ができる時間を確保できるよう進めていきたいことの所感と、委員に対し貴重な意見を頂戴したことへの謝辞があった。

Ⅲ. 学校概要 説明資料





1

概要

教員	69名	事務系職員	33名
校長	1名	技術系職員	13名
教授	30名		
准教授	27名		
助教	11名		

【令和7年4月1日現在】

本科

- 機械工学科
- 電気電子工学科
- 電子制御工学科
- 制御情報工学科
- 物質工学科

教養科（一般科目）

学生総数

本科 1,026名 (196名)

留学生 9名

専攻科 53名 (9名)

学生定員

本科 1,000名
(40名×5学科×5学年)

専攻科 48名 (24名×2学年)

専攻科

- 総合システム工学専攻
- 環境エネルギー工学コース
- 新機能材料工学コース
- 医療福祉機器開発工学コース



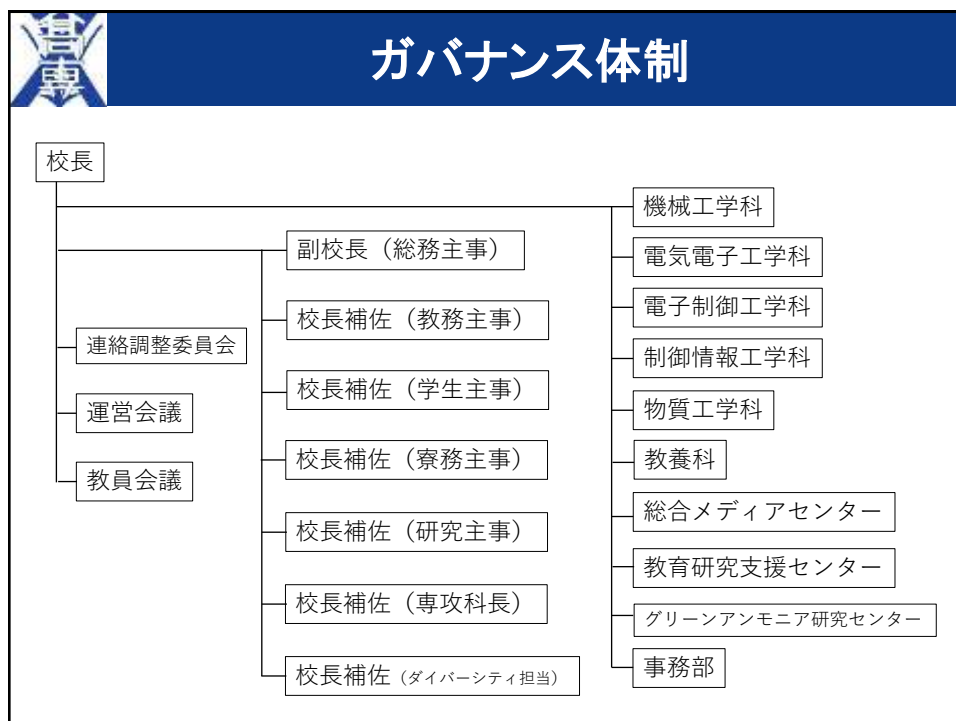
2

沿革

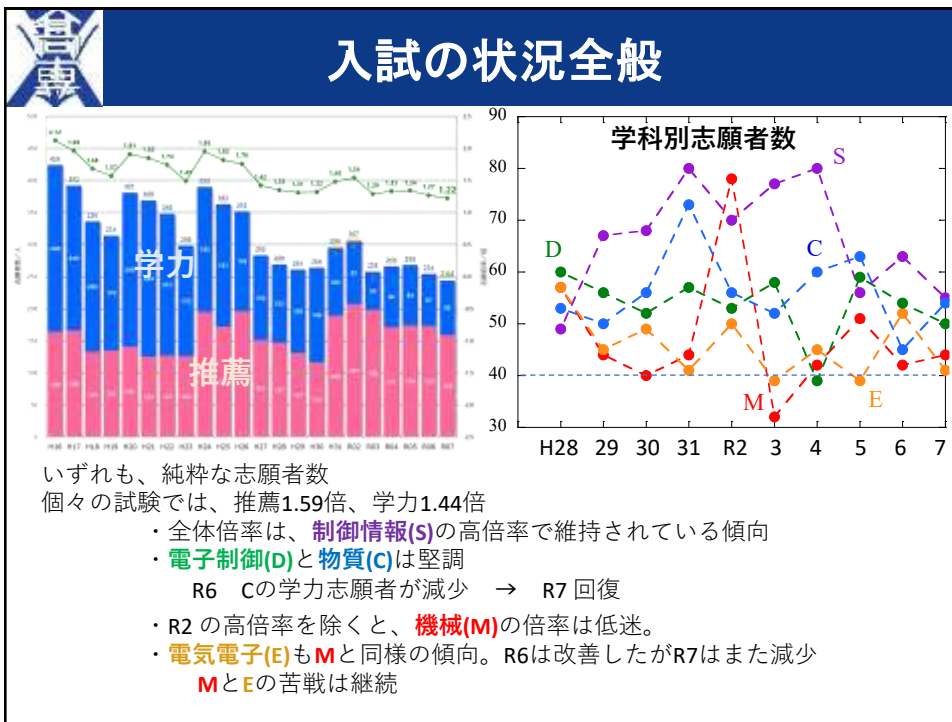
昭和37年（1962年）	機械工学科2学級、電気工学科1学級が設置
昭和41年（1966年）	工業化学科1学級が設置
昭和61年（1986年）	電子制御工学科1学級が設置
平成元年（1989年）	工業化学科が物質工学科に改組
平成 4年（1992年）	機械工学科（2学級）が 機械工学科（1学級）と制御情報工学科（1学級）に改組
平成 8年（1996年）	専攻科（3専攻）が設置 機械・電気システム工学専攻 制御・情報システム工学専攻 応用物質工学専攻
平成11年（1999年）	電気工学科が電気電子工学科に改組
平成16年（2004年）	独立行政法人国立高等専門学校機構に帰属
平成26年（2014年）	専攻科（3専攻）を 総合システム工学専攻（1専攻3コース）に改編 環境エネルギー工学コース 新機能材料工学コース 医療福祉機器開発工学コース
令和 4年（2022年）	創立60周年

3

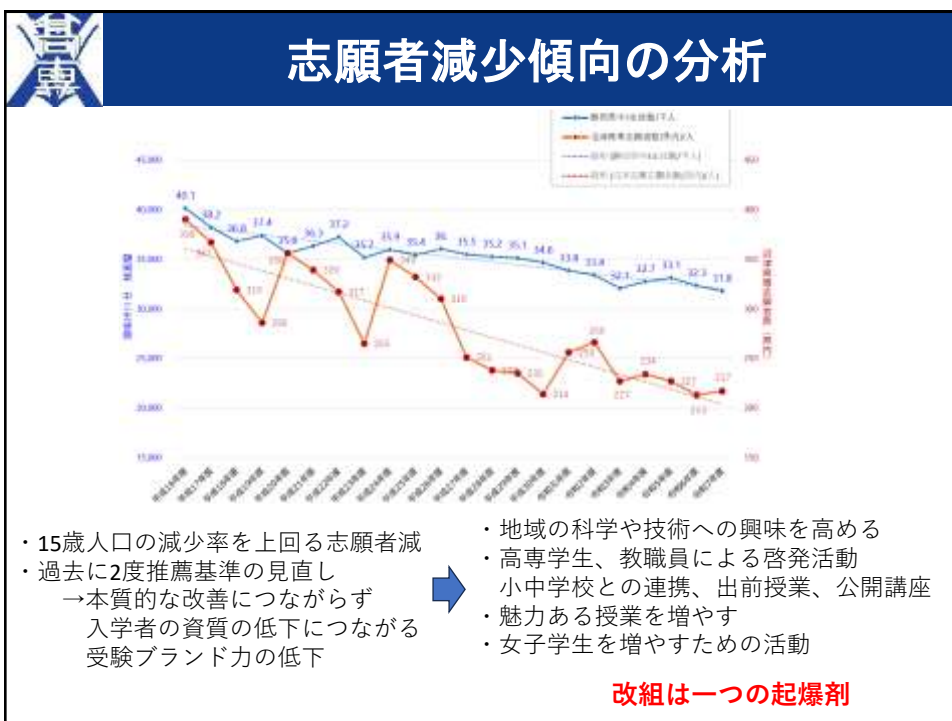
ガバナンス体制



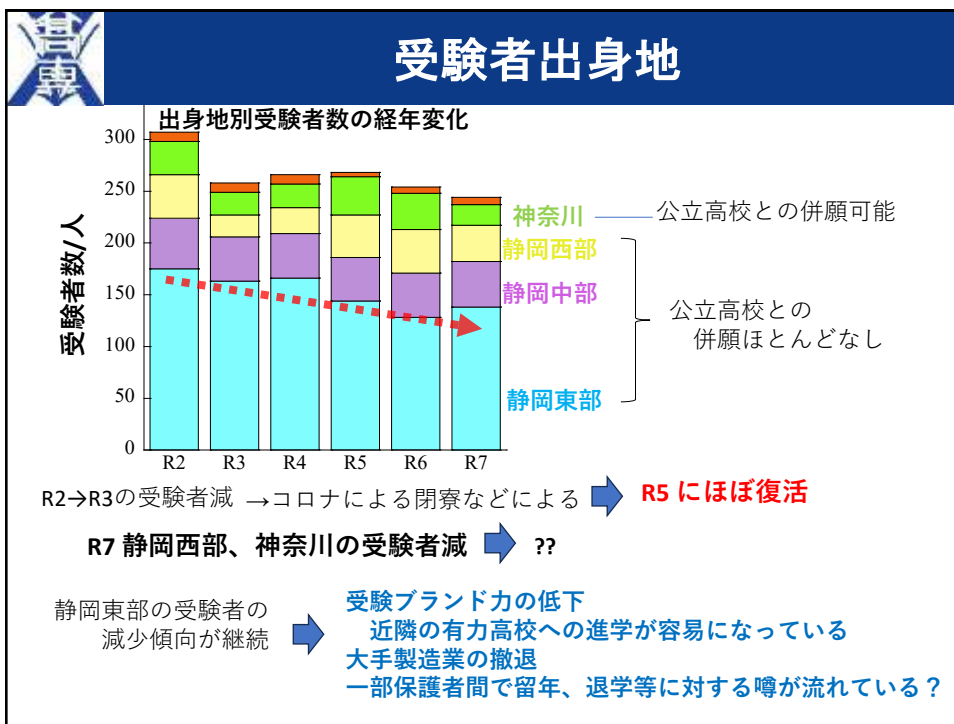
4



5



6



7

卒業生進路(R6年度)

本科			専攻科		
	人数	割合		人数	割合
就職	102	0.57	就職	16	0.53
進学	68	0.38	進学	11	0.37
その他	10		その他	3	
計	180		計	30	

進学(大学編入、専攻科)

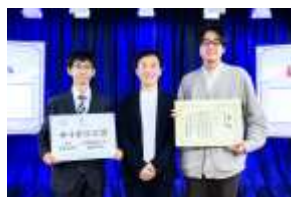
進学(大学院)

8



学生の活躍(最近1年)

- ・高専GCON2024本選で優秀賞
- ・オープンデータ等活用アイデア学生コンテストで最優秀賞、優秀賞等
- ・U-22プログラミング・コンテスト2024でスポンサー企業賞
- ・高専ロボコン2025東海北陸地区大会、特別賞(DENSO賞)を受賞
- ・NICEにほんごスピーチコンテストにおいて留学生が優勝
- ・化学工学会秋季大会で専攻科生が上田奨励賞
- ・日本機械学会畠山賞受賞
- ・日本化学会東海支部長賞受賞
- ・日本分析化学会中部支部優秀高専学生賞受賞



9



学生寮

翔峰寮・栄峰寮・光峰寮・優峰寮・清峰寮・秀峰寮・
明峰寮（女子寮）

現員 約400名

「秀峰寮」 2021年8月竣工



「優峰寮」 2024年9月竣工



10



クリエイティブ・アトリエ

R4 補正予算 高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業

沼津高専のスタートアップ教育環境を整備し、新たなビジネスモデルを創出できるDX人材、起業家を育成する実践教育を行う



ワークスペース



ミーティングサテライト

11

11

チャレンジコンテスト

令和7年12月13日（土）10：00～



アントレプレナーシップ部門
キャンパスライフ部門

12

12



地域連携

地域創生テクノセンター

科学技術相談
共同研究・受託研究等
研究シーズの情報提供
社会人向けの公開講座
各種イベント

静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専

テクノサロン
技術セミナー

沼津市、三島市、裾野市、長泉町
商工会議所、地域信用金庫、
沼津高専地域創生交流会、
沼津高専同窓会、
沼津高専とともに歩む議員連盟などと連携

未来創造ラボラトリー

中小企業の研究開発
共同教育
学内インターンシップ



13



リカレント教育

沼津高専特別課程 富士山麓医用機器開発エンジニア養成 プログラム (F-met)

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 医用基礎技術科目 <ul style="list-style-type: none"> 薬事申請・関連法規基礎講座 医用工学基礎講座 医用機器概論 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 医用先端技術科目 <ul style="list-style-type: none"> 医療品質安全工学基礎講座 医用機器産業基礎講座 先端医用・介護技術講座 医用機器開発演習 |
|---|---|

- ✓ 静岡県「ファルマバレープロジェクト」の1事業
- ✓ 本プログラム修了者は「医療機器 総括製造 販売責任者及び責任技術者」の資格要件である3年間の業務従事経験が免除
- ✓ 100名以上の修了生を輩出
- ✓ 令和3年度より「総合特区」に山梨県の7つの市町が合流

14



教育における地域貢献

- ・公開講座、出前授業
- ・近隣小中学校での学生による算数、数学指導
- ・地域小中学校の自由研究支援
- ・沼津市少年少女発明クラブを後援、教員・学生が協力



15



特徴的な教育、取り組み

共同教育

- 企業との共同教育に関する事業 拠点校
- 専攻科実験 × 地域企業・病院
- 小型自律移動ロボット開発 × 社会実装教育



専攻科実験
地域企業との共同開発

地域志向教育

- 3年 or 4年：社会と技術
オープンデータ活用×データサイエンス
- 4年：社会と工学
地域社会が抱える問題の解決法を提案
- 5年：社会と産業
技術者に必要な視野の広さと創造性を涵養
- STEAM教育
近隣小中学校での学生による算数、数学指導
沼津市少年少女発明クラブでの教員、
学生による指導
小中学生の自由研究サポート



社会と工学
裾野市と地元企業



算数、数学指導
@近隣小中学校

コンテスト教育

- 沼津高専チャレンジコンテスト × スタートアップ教育
(企業からの寄附で運営) (金融、知財 他)
- 各種コンテストへの積極的な参加



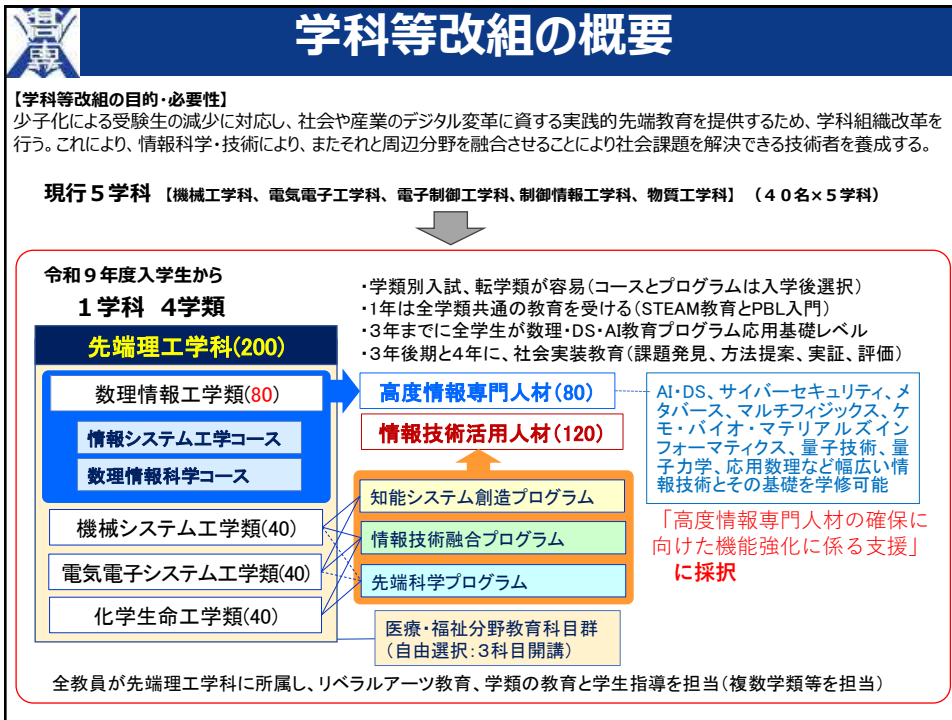
沼津高専
チャレンジコンテスト



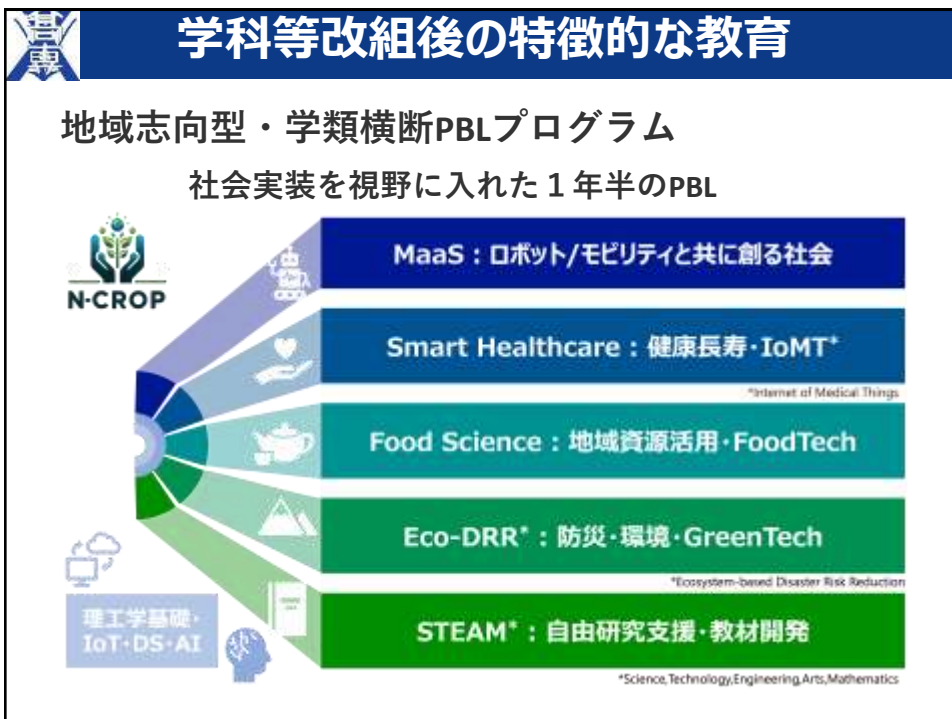
CurioBase

学生スタートアップ

16



17



18



研究

2021年度地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（JST/JICA） SATREPS

- ・ テーマ名：再生可能エネルギー水素を用いた
新しいアンモニア合成システムの研究開発
- ・ 研究代表者：秋鹿研一（沼津高専・客員教授）
- ・ 相手国研究先：南アフリカ共和国・ノースウエスト大学
- ・ 南アフリカ側で水電解水素製造技術を、日本側でアンモニア製造技術を開発し、エネルギーキャリアとしてのグリーンアンモニアの利活用を拡大
- ・ 日本側で合成触媒と分離剤を用いた新しいシステムを開発
- ・ ミニパイロット装置を制作して実用サイズ（1日当たり60トン）のプロセス設計のためのデータを取得
- ・ 日本のグリーンアンモニア技術を製造とサービスを行う産業に発展



沼津高専内に「**グリーンアンモニア研究センター**」を設置

19



課題

- ・ 15歳人口減、大学全入時代にあって、いかに志願者を集めるか
- ・ 多様な学生の指導
- ・ 女子学生の割合が低い
- ・ 適度な国際化
- ・ 教職員の業務量の軽減
- ・ 教員の研究時間の確保
- ・ 地域企業とのより密接な関係の構築
- ・ 建物、ファシリティの老朽化

20

Ⅳ. 諮問事項 説明資料

1. 令和6年度自己点検・評価および

令和7年度年度計画について



議題 1

令和6年度自己点検・評価 および令和7年度年度計画について

本校の自己点検・評価＝教育の内部質保証 (学校教育法第109条1項および2項)

1. 外部評価機関が作成する点検項目に基づき、重点的に取り組むべき項目および高専機構年度計画に基づく項目についての自己点検・評価
2. 高等専門学校機関別認証評価(法定の定期評価：R7受審，教育活動等の内部質保証システムの確立と充実
および3つのポリシーに基づく自己評価についての評価)
3. 運営諮問会議(外部識者)による評価
(項目「内部質保証体制において、機関別認証評価や第三者評価の結果を踏まえた改善がなされていること」の評価)

1

自己点検・評価に関する基本方針 R.7.12.10改訂

趣旨・目的（抜粋）

本校は、教育理念「人がらのよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」のもとに、教育目的として「豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて科学と技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成」を掲げ、優秀な技術者を卒業生として送り出すとともに、静岡県東部地区唯一の工科系高等教育機関として、地域社会への貢献に努めている。

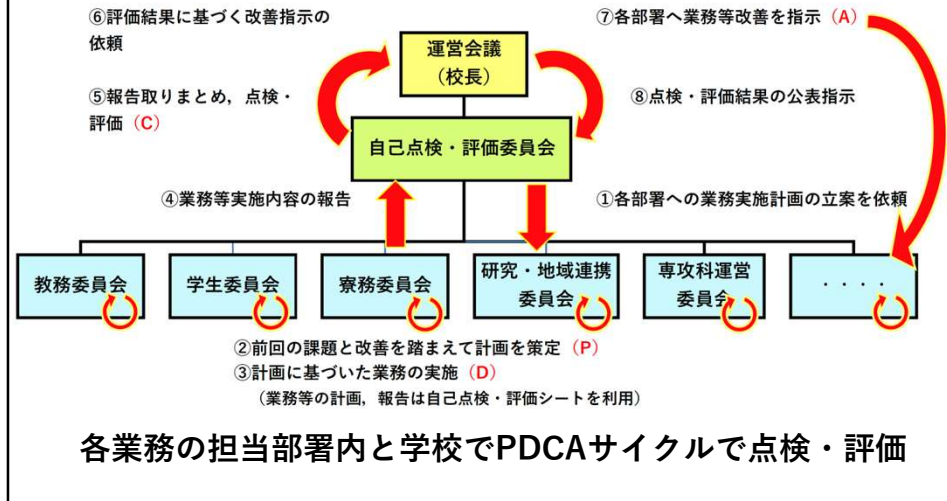
これらを確実に実施していくために本校が継続的に発展するには、**外部有識者**、本校教職員、学生及び関係者の**協力を得て**、教育、研究、社会連携及び管理運営について**点検・評価及びこれに基づく改善を組織的に継続実施**し、本校が自ら質を保証することが不可欠である。

2

自己点検・評価体制：内部質保証の体制

沼津高専の自己点検・評価実施体制

学校経営（教育、研究、地域貢献）の改善：自己点検・評価委員会を統括組織とするPDCAサイクル



3

点検・評価項目の一覧表(一部)

令和_年度 沼津高専 自己点検・評価項目一覧表		別表1			
No.	区分	関連事項	点検・確認項目	担当部署等（実施内容（点検状況等））	自己評価
1	自己点検・評価	基準1-1-1、1-2-2【重点評価項目】 観点1-1-1① 教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備されていること 観点1-1-2② 内部質保証体制において承認された対応措置の計画を実施する手順が定められていること 観点1-2-2⑦ 内部質保証体制において、その決定した計画の進捗を確認するとともに、必要な対応方法を決定する手順が定められていること	・年度初めに当該年度の「自己点検・評価実施計画」及びアセスメントプランを策定する。 ・「自己点検・評価に関する基本方針」について、令和7年度高等専門学校機関別認証評価基準、自己評価実施要領等に対応するべく、必要な改正を行う。	自己点検・評価委員会 ／総務課	
2	自己点検・評価	基準1-2-2【重点評価項目】 観点1-2-2① 以下の事項を内部質保証体制が確認する手順を有していること (1) DPが学校の目的に基づき定められていること (2) CPが学校の目的及びDPと整合性をもって定められていること (3) APが学校の目的に基づき定められていること (4) 学習成果の達成がDPの達成を必要（必ず）に必要な水準となっていること 【分析の手順】 1) 学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、学校自身が点検する体制が整備されていることを確認する。	・現在、運営会議が所定している自己点検体制について、自己点検・評価委員会の委員長及び委員の見直しを行い、必要な改正を行う。	自己点検・評価委員会 ／総務課	
3	自己点検・評価	基準1-2-2【重点評価項目】 観点1-2-2② 教育課程ごとの点検・評価において、組織上の各基準に基づく判断を行うことが定められていること （基準5-1-1）DPが具体的なかつ明確であること	・組織上の基準、観点の各項目を自己点検・評価項目とするチェックシート等を作成し、定期的に教育課程ごとの点検・評価を行う。 ・本科のDPは教務委員会、専攻科のDPは専攻科運営委員会へ、DPの具体性、明確性について点検・評価の上、自己点検・評価委員会に結果を報告するよう依頼する。	自己点検・評価委員会 ／総務課	
4	自己点検・評価	基準1-2-2【重点評価項目】 観点1-2-2③ 教育課程ごとの点検・評価において、組織上の各基準に基づく判断を行うことが定められていること （基準5-2-1）CPが具体的なかつ明確であり、DPと整合していること	本科は教務委員会、専攻科は専攻科運営委員会において、CPの明確性及びAPとの整合性について点検・評価の上、自己点検・評価委員会に結果を報告するよう依頼する。	自己点検・評価委員会 ／総務課	
5	自己点検・評価	基準1-2-2【重点評価項目】 観点1-2-2④ 教育課程ごとの点検・評価において、組織上の各基準に基づく判断を行うことが定められていること （基準5-3-1）教育課程がCPに基づき体系的に編成され、授業科目の内容がCPに基づき設定されていること	本科は教務委員会、専攻科は専攻科運営委員会において、CPに基づき教育課程、DPに基づき授業科目の設定について点検・評価の上、自己点検・評価委員会に結果を報告するよう依頼する。	自己点検・評価委員会 ／総務課	
6	自己点検・評価	基準1-2-2【重点評価項目】 観点1-2-2⑤ 教育課程ごとの点検・評価において、組織上の各基準に基づく判断を行うことが定められていること （基準5-4-1）DP及びCPに基づき、適切な授業形態、学習指導方法が採用されていること	本科は教務委員会、専攻科は専攻科運営委員会において、DP及びCPに基づき適切な授業形態や学習指導方法が採用されているか点検・評価の上、自己点検・評価委員会に結果を報告するよう依頼する。	自己点検・評価委員会 ／総務課	
7	自己点検・評価	基準1-2-2【重点評価項目】 観点1-2-2⑥ 教育課程ごとの点検・評価において、組織上の各基準に基づく判断を行うことが定められていること （基準5-5-1）適切な履修指導、支援が行われていること	本科は教務委員会、専攻科は専攻科運営委員会において、適切な履修指導、支援が行われているか点検・評価の上、自己点検・評価委員会に結果を報告するよう依頼する。	自己点検・評価委員会 ／総務課	

4

自己点検・評価報告書(ウェブサイトで公開)

令和 6 年度

沼津工業高等専門学校自己点検・評価報告書

(年次報告)

沼津工業高等専門学校

8つの分類27項目内の細目について自己点検・評価

【目次】

1、現況及び特徴	P-1
2、目的	P-3
3、事項毎の自己点検・評価	
A.入試 (トピックス)	P-5
(自己点検・評価表) A100 入試制度の改善	P-6
A200 入学志願者確保の取り組み	P-7
B.教務 (トピックス)	P-9
(自己点検・評価表) B100 3つの方針 (専攻士課程)	P-10
B200 授業関係・成績評価	P-12
B300 教育改善の取り組み	P-12
B400 特別課程	P-13
C.学生 (トピックス)	P-14
(自己点検・評価表) C100 学生の諸活動	P-15
C200 学生の健康・安全	P-15
C300 就学支援	P-16
D.寮務 (トピックス)	P-17
(自己点検・評価表) D100 学寮生活指導	P-19
E.専攻科 (トピックス)	P-20
(自己点検・評価表) E100 3つの方針 (専攻科課程)	P-21
E200 専攻科授業・成績評価	
E300 共同教育・長期インターンシップ	P-22
F.研究・社会連携 (トピックス)	P-23
(自己点検・評価表) F100 研究	P-25
F200 社会連携	P-25
G.国際交流 (トピックス)	P-28
(自己点検・評価表) G100 国際交流	P-28
G200 留学生支援	P-29
X.学校運営 (トピックス)	P-35
(自己点検・評価表) X010 ガバナンス・リスク管理	P-37
X020 コンプライアンス	P-41
X110 人事・財務	P-43
X130 施設整備	P-44
X140 安全衛生	P-45
X200 自己点検・評価	P-46
X500 優れた教員の確保	P-51
X510 教職員の資質向上	P-54
X800 業務改善	P-56
X900 外証組織との連携	P-57

5

自己点検・評価報告書(ウェブサイトで公開)

A.入試

- 令和 6 年度は次のとおりに入学者選抜を実施した。
 - (1) 推薦選抜の出願要件と選抜方法は前年度から変更なく、それぞれ、9 教科の平均評定が 4 以上であること (ただし、数学・理科が 4 以上) および調査書 (内中点、45 点満点) と個人面接 (30 点満点) の合計点で合格を判定した。
 - (2) 学力選抜の選抜方法も前年度と同様、5 科目の試験 (100 点満点、ただし数学と理科は 1.5 倍に換算) の学力検査 (600 点満点) と調査書 (内中点、160 点満点) の合計点で合格判定を行った。
 - (3) 帰国生徒学力選抜試験も引き続き実施したが志願者はいなかった。
 - (4) 試験会場は、沼津 (本校)、浜松 (アクティビティ浜松)、小田原 (国際医療福祉大学小田原キャンパス) に設定した。
- 志願状況は昨年度からわずかながら減少した。具体的には次のとおり。
 - 推薦選抜への志願者は 14 名減で 159 名、学力選抜への志願者と合わせた全体は 244 名 (前年比 -10 名) となった。志願率は 1.22 倍と前年より 0.05 倍減少した。
 - 志願者の人数は静岡県中部と東部は昨年度から増加 (前年比、東部 10、中部 1) 西部と神奈川県各地域において減少傾向 (前年比、西部 -7、神奈川県 -15 名) であり志願者減の最大の要因と考えられる。
- アドミッションポリシーに合った学生の確保の観点からも入試選抜の方法を継続的に検討する。
- 今年度実施した代表的な入試広報活動は次のとおり。
 - 本校ウェブサイトで情報発信 (入試情報や入試広報イベント等のページを随時更新) した他、本校公式 SNS への配信および、受験生向け配信サービスを継続し、本校の特色と魅力を積極的に伝えた。また、6 月から 7 月にかけて、静岡県東部の中学校校長等への広報活動を行った。
 - 8 月に一日体験入学、10 月に中学生のための体験授業および体験入寮を実施。そのほか 6 月～11 月にかけて県内各所での進学説明会を行うとともに、中学校等が開催する高校説明会へ参加、6 月より出前授業、10 月～12 月の期間でキャンパスツアーを随時開催した。
 - 10 月に実施した体験入寮については、昨年度に引き続き募集人数を男女同数の参加に設定し、女子中学生も応募しやすいような公募を行った。

A.入試

区分項目	A100	入試制度の改善
No.	A100-506	
基準項目・関連事項等	定評ある 5 年次課程の教育活動の状況 (5-12-①)	
具体的活動事例	・毎年度、新入生に対する入学動機に関するアンケートを実施し、AP の理解度を検証する。また、検証アンケート結果は、次年度入学志願者の改善に活用する。	
実施内容	・今年度の新入生に「入学動機に関するアンケート」を実施し、AP の理解度を検証した。この結果を含め、次年度入学志願者の改善を 5 月実施予定の会議で検討した。	
自己評価 (特記事項)	A	

A.入試

区分項目	A100	入試制度の改善
No.	A100-506	
基準項目・関連事項等	年度計画「教育に関する事項 (入学者の確保)」1.1-①-②-1	
具体的活動事例	受験生の利便性を向上させるため、静岡県内での私立高等学校等での受験できる「推薦型推薦型試験」及び一度の学力検査で複数の私立高等学校の志願が可能な「推薦型推薦型試験」については、過去の入試実施状況データを分析し、入試選抜方法に関する「実施方針」を定めて、入試選抜方法に関する検討を行い、必要に応じて改善する。また、本邦が実施する諸外国の推薦型試験を活用した入学志願者方法について検討を行い必要に応じて改善する。	
実施内容	受験生の利便性を向上させるため、静岡県内での私立高等学校等での受験できる「推薦型推薦型試験」及び一度の学力検査で複数の私立高等学校の志願が可能な「推薦型推薦型試験」については、過去の入試実施状況データを分析し、入試選抜方法に関する「実施方針」を定めて、入試選抜方法に関する検討を行い必要に応じて改善する。また、本邦が実施する諸外国の推薦型試験を活用した入学志願者方法について検討を行い必要に応じて改善する。	
自己評価 (特記事項)	A	

A.入試

区分項目	A100	入試制度の改善
No.	A100-507	
基準項目・関連事項等	年度計画「教育に関する事項 (入学者の確保)」1.1-①-②-2	
具体的活動事例	推薦型推薦型試験への配慮に関する情報を募集要項に記載し、申請があった場合は内容に応じて対応する。	
実施内容	推薦型推薦型試験への配慮に関する情報を募集要項に記載し、申請があった場合は内容に応じて対応する事項をした。合理的配慮対応件数は推薦選抜 1 件、学力選抜 3 件であった。	
自己評価 (特記事項)	A	

6

年度計画(ウェブサイトで公開)

沼津工業高等専門学校 令和7年度(2025年度)年度計画

独立行政法人国立高等専門学校機構中期計画等の策定及び評価に関する規則第4条第7項の規定に基づき、令和7年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

1. 1 教育に関する事項

(1) 入学者の確保

- ①-1 本校ウェブサイトのコンテンツの充実や、静岡県の中小学校や教育委員会等への広報活動を行い、本校の特性や魅力を発信する。
また、中学校等が開催する高校説明会や中学生及びその保護者等を対象とする合同説明会へ、積極的に参加し入学者の確保に取り組む。
- ①-2 一日体験入学、中学生のための体験授業、キャンパスツアー、進学説明会の機会を活用し、入学者の確保のための本校の特性や魅力を発信する。
- ①-3 中中学校・小中学生を対象とした出前授業の取組を通じ、国立高等専門学校の特性や魅力を発信することにより、入学者の確保に取り組む。
少年少女発明クラブ等と連携し、小中学生を対象としたSTEAM教育支援の取組等を通じ、地域の理工系人材の早期発掘及び人材育成支援を推進に努める。
- ②-1 授業を体験できる「中学生のための体験授業」について、女子中学生が積極的に参加できる企画など、女子学生確保に向けた取組を推進する。
- ②-2 本校ウェブサイトのコンテンツの充実などを通じ、本校の教育の特性や魅力について内外への情報発信をするとともに、英語版のコンテンツや広報資料の充実等についても検討し必要に応じて改善する。
・短期の英語による高専教育プログラムであるKOKEN Global Campの実施について検討し必要に応じて対応する。
・外国人留学生に対し、日本語教育をはじめとする支援を行う。
・諸外国の在日大使館や、独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)が主催する外国人留学生向け進路説明会等を対象とした広報活動について検討する。
- ③-1 受験生の利便性を向上させるため、原付地の近くの国立高等専門学校等で受験でき

る「最寄り地等受験」及び一度の学力検査で複数の国立高等専門学校の志望が可能な「複数校志望受験制度」については、過去の入試実施状況データを分析し、入改革に関する「実施方針」を踏まえて、入学選抜方法に関する検討を行い、必要に応じて改善する。

また、本校が実施する講座等の受講証明等を活用した入学選抜方法について行い必要に応じて改善する。

- ③-2 障害がある受験生への配慮に関する情報を募集要項に掲載し、申請があった場合に応じて対応する。

(2) 教育課程の編成等

- ①-1-1 本校の強み・特色を生かした学科再編計画に向けて検討を進める。また、専攻実等に取り組む。
- ①-1-2 次世代基盤技術教育のカリキュラム化について検討を進めるとともに、アントナシップ教育や社会実装教育に取り組む。
- ①-2 教育内容の高度化に向けて、豊橋技術科学大学との間で定期的な連携・協議の用し、連携教育プログラムを推進する。
専攻科実験において、浜松医科大学や産業界等の有識者と連携・協力し、医療テーマとする課題解決型実習を通じた共同教育を推進する。
- ②-1 学生が海外で活動する機会を確保する体制の充実として、以下の取組を実施。
・国際交流協定校を中心として単位認定制度の整備や単位互換協定の締結を検討。
・国際交流協定校への短期留学、高等機構海外インターンシッププログラム等新たな学生派遣について検討する。
・グローバルな視点で課題解決にチャレンジできる人材を育成する国立高等専門取組に協力する。
- ②-2 学生の実践的な英語力、国際コミュニケーション力の向上や、海外活動を積極し、グローバル環境下で専門知識・スキルを活用し、協働して課題解決に取り組むことができる人材を育成する取組を推進する。
・グローバルな視点で課題解決にチャレンジできる人材を育成する国立高等専門取組に協力する。【再掲】
・短期の英語による高専教育プログラムであるKOKEN Global Campの実施に検討し必要に応じて対応する。【再掲】。
- ③-1 高等体育大会、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、ディープラコンテスト、デザインコンペティション、英語プレゼンテーションコンテスト積極的に参加し、運営に協力する。
- ③-2 学生に対して、ボランティア活動の参加意義や災害時におけるボランティア活

7

機関別認証評価の過程における要対応事項

1. 関係者の意見を聴取する仕組みが設けられていること
 - ・聴取結果を内部質保証体制が確認する仕組みが設けられていること

- ✓ 自己点検・評価に関する基本方針と計画に明示。
- ✓ 在校生、卒業（修了）時学生、一定年数後の卒業（修了）生、保護者、就職・進学関係者から聴取した意見等（アンケート等）について、必要に応じて点検・評価に反映させる。
- ✓ 校長と教員、上長と職員の定期面談を通じて、意見を聴取し、必要に応じて点検・評価に反映させる。
- ✓ 中学校・地方公共団体・民間企業その他の関係者が参画する会議を開催して意見を聴取し、必要に応じて点検・評価に反映させる。

要件に対応していることを示すことはできたものの
改善への活用を一層進める必要がある。

8

機関別認証評価の過程における要対応事項

2. 内部質保証体制において共有、確認された自己点検・評価結果(第三者評価の結果を含む)を踏まえた対応措置について検討、立案、提案する手順が定められていること

・自己点検・評価の結果を踏まえた対応措置について検討、立案、提案するための手順を定めた規程等

✓基本方針内に明示

✓自己点検・評価結果等が取組みの改善・向上に結びついた事例について、当該「自己点検・評価結果報告」においてピックアップし今後の改善に活かす。

要件に対応していることを示すことはできたものの改善への活用を一層進める必要がある。

9

令和7年度 年度計画：教育に関する事項

教育課程の編成等

- ・本校の強み・特色を生かした学科再編計画の具体化、専攻科の充実等。
- ・次世代基盤技術教育のカリキュラム化について検討、アントレプレナーシップ教育や社会実装教育。
- ・豊橋技科大との定期的連携/協議を活用し、連携教育プログラム推進。
- ・大学や産業界等の有識者との共同教育推進(専攻科・医療福祉機器開発C)。
- ・学生の海外での活動機会の充実
- ・学生の実践的な英語力、国際コミュニケーション力の向上や海外活動の経験による、グローバルに専門知識・スキルを活用できる人財の育成。
- ・各種コンテストへの積極的参加の啓蒙と運営協力。
- ・ボランティア活動参加の奨励や1～4年生全クラスでのクリーン活動。

10

特にご意見をいただきたい点

- ・ 本校の自己点検・評価体制と仕組みの改善への実効性を高めるための方策あるいは留意すべきこと
特にステークホルダーからの意見聴取の改善
- ・ 学生の基礎学力，専門の学修における到達度を向上につなぐたり，社会からの要請に応えるために有効な付加的教育内容

Ⅳ. 諮問事項 説明資料

2. 本校におけるいじめ防止対策と現状について



令和7年度 運営諮問会議

沼津高専における いじめ防止対策と現状について

学生主事

佐藤 誠

1

沼津工業高等専門学校における いじめ防止等基本計画

*本校の基本計画は、いじめの未然防止、早期発見、事後対処を総合的かつ効果的に推進するために以下の3つの内容から構成されている。

- 1：いじめ対策等防止ポリシー
- 2：いじめ防止等プログラム
- 3：いじめ早期発見・対処マニュアル

2

1：いじめ防止等対策ポリシー

以下の項目について規定

- ・ いじめの定義
- ・ いじめの禁止
- ・ 基本的姿勢
- ・ 本校及び教職員の責務
- ・ いじめ防止等基本計画
- ・ いじめ防止等に関する組織
- ・ いじめの未然防止のための取り組み
- ・ いじめの早期発見のための取り組み
- ・ いじめ事案への組織的取り組み
- ・ インターネット等によるいじめへの対応
- ・ いじめを行った学生への懲戒
- ・ いじめの解消
- ・ 重大事案への対応
- ・ 教職員の研修等
- ・ 実効的なPDCAサイクルの確保並びに本校及び教職員評価における留意事項
- ・ 文書の取扱い

3

いじめ防止等プログラム

1. 学生対象アンケート
年2回（5月，10月），全学生を対象に，いじめの有無の調査を含むアンケートを実施。
2. 担任面談
年に2回，担任は担当するクラスの全学生と面談を行う。
（新年度当初と夏季休業あけに実施）
3. いじめ防止週間
年に1回（5月），いじめ防止週間を設定し，ポスター掲示などによる啓発活動や相談窓口に関する周知を行う。
4. いじめ防止講習会
年に1回（5月），本科1年生を対象にいじめ防止講演会を行う。
5. 教職員研修
年に1回（3月），教職員を対象にいじめ防止研修会を行う。
6. 学校方針の周知
年度初めにクラスにおいては担任・助言教員から，クラブ・同好会においてはクラブ顧問教員から，学寮においては寮務主事から，いじめに対する学校の理念と方針について学生に伝える。

4

7. 相談窓口の周知

学生には担任のみならず、まわりの教職員の誰にでも相談できることを日頃から周知する。また学生生活支援室の相談窓口が対面、メール、Moodle、投書箱など多種の方法で設けられていることを広く周知する。



5

8. 保護者からの情報を得やすい環境作り

年に1回、保護者を対象としたアンケートを実施し、保護者からの情報を得やすい環境を整える。アンケートは10月～11月に実施し、保護者に対しても相談窓口を周知する。

9. 保護者や地域社会に向けた学校方針の周知

本校ホームページ等に基本計画を掲載し、広く周知。

10. いじめ対策委員会

いじめ対策委員会を2ヶ月に1回程度開催し、いじめ防止に関する取り組みを定期的に確認。

11. 点検と見直し

いじめ対策委員会は年に1回、計画の実効性の検証を行い、取り組みの見直しを行う。その結果についてはホームページ等に掲載するとともに、機構に対して報告を行う。

6

日常的ないじめの発見・対応について

担任，保健室，支援室，学寮などからの情報を学生主事と学生生活支援室長が共有する。（情報の内容に応じて教務主事，寮務主事とも共有）

共有された情報をもとに，聞き取り調査などの対応をいじめ対策WGメンバーで検討し，実施していく。

事案によってはいじめ対策WGからいじめ対策委員会へ検討を引き継ぎ対応する。

具体的な対応に関してはいじめ早期発見・対処マニュアルに基づいて実施している。

7

「仲間とのかかわり」調査アンケートの実施状況

令和7年度「仲間とのかかわり」調査アンケート結果

調査日 2025年10月24日(金)～11月6日(木)

回答数 957人 89.0% (R7第1回70.5%)

質問内容

・あなたやあなたのまわりでいじめがあった場合に，学内で誰に相談したらよいか知っていますか。

はい 733人 76.6% いいえ 207人 21.6% 無回答 17人 1.8%

・あなたは，いじめまたは（いじめとまでは言えないが）それに類する行為を受けたことがありますか。

「はい」と答えた学生 33人

・あなたは，いじめまたは（いじめとまでは言えないが）それに類する行為を受けている人を知っていますか。

「はい」と答えた学生19人（現在詳細を確認中）

・上記の質問で「はい」と答えた人は，その人の名前を教えてください。

17名の氏名を確認（現在詳細を確認中）

8

Ⅳ. 諮問事項 説明資料

3. 数理・データサイエンス・A I 教育の実施について



【議題3】
数理・データサイエンス・AI教育
プログラムの実施について

沼津工業高等専門学校
教務主事 芹澤弘秀

1

数理・DS・AI教育プログラム認定制度

沼津は令和5年度に認定済 リテラシーレベル

【目的】学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め(適切に理解し)、それを活用する基礎的な能力を育成すること及びそれを活用して課題を解決するための実践的な能力を育成すること

【背景】デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である「数理・DS・AI」の基礎などの必要な力を全ての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍する環境を構築する必要

応用基礎レベル
令和7年度5月申請、8月認定

AI戦略2019の育成目標
(2025年度)
①リテラシー約50万人/年
(大学・高専卒業者全員)
約100万人/年(高校卒業者
全員、全小中学生)
②応用基礎約25万人/年
(高専・大学の50%⇒高専の
認定は必須[機構本部])
③エキスパート約2,000人/年

<認定制度の概要>



大学・高等専門学校の数理データサイエンス教育に関する正規課程教育のうち、一定の要件を満たした優れた教育プログラムを政府が認定し、応援！多くの大学・高専が数理・データサイエンス・AI教育に取り組むことを後押し！

2

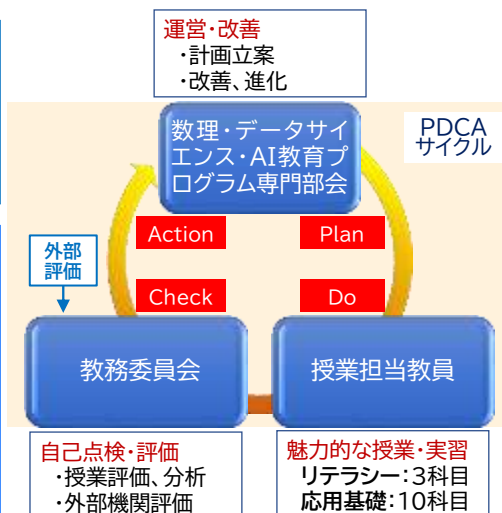
沼津工業高等専門学校 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 取組概要

【プログラムの目的】

学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解して活用できる基礎的な能力を育成すること及び数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力の向上を図る機会の拡大に資することを目的とする。

【身につけられる能力】

- ・デジタル社会の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AIの基礎的な能力を身につけ、その有効性を理解できる。
- ・社会等の実データから学んだ知識をもとに、様々なデータの読解力を身につけ、学修した知識やスキル等を説明・活用できる。
- ・情報セキュリティや情報倫理に留意しつつ、得られるデータについて人間中心の適切な判断ができる。



3

プログラムの構成科目と本校の対応

各レベルの授業科目と単位数

リテラシー レベル	科目名	学年	単位数
(3科目)	情報処理基礎	1年	2単位
	工学基礎Ⅰ	1年	1単位
	工学基礎Ⅱ	1年	1単位
応用基礎 レベル	科目名	学年	単位数
(10科目)	情報処理基礎	1年	2単位
	工学基礎Ⅰ・Ⅱ	1年	2単位
	基礎数学Ⅱ・Ⅲ	1年	4単位
	微分積分Ⅰ	2年	2単位
	線形代数Ⅰ	2年	2単位
	線形代数Ⅱ	3年	2単位
	社会と工学	4年	2単位
	社会と産業	5年	2単位

・ **応用基礎レベル**は2025年5月に申請し、8月に認定(R6年度卒業生も認定)

- 「データ・AI活用、企画・実践・評価」に関する課題解決型学習が必要→社会と工学(4年)で対応
- 「AIの歴史・基礎原理、展望等」に関する内容(生成AI含む)が必要→社会と産業(5年)で対応

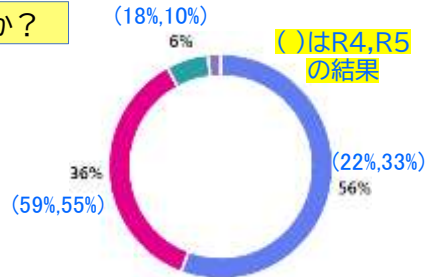
4

R6数理・DS・AI教育に関するアンケート

説明や教材利用が適切で分かりやすかったか？

1.当教育分野の授業について、教員の説明や教材の利用が適切で授業内容がわかりやすかったですか？

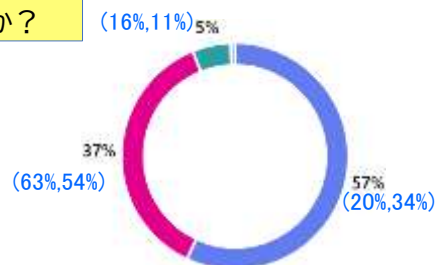
● とてもわかりやすかった	92
● わかりやすかった	60
● ある程度わかりやすかった	10
● わかりやすくなかった	3



授業のレベルや進度は自分にとって適切か？

2.当教育分野の授業について、レベルや進度は、自分にとって適切でしたか？

● とても適切だった	94
● 適切だった	61
● ある程度適切だった	9
● 適切ではなかった	1



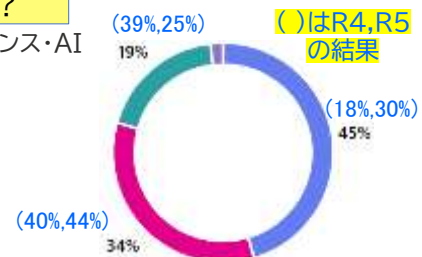
5

R6数理・DS・AI教育に関するアンケート

DS・AI教育分野への興味関心が増したか？

3.当教育分野の授業を受けることで、データサイエンス・AI教育分野に関する興味関心が増しましたか？

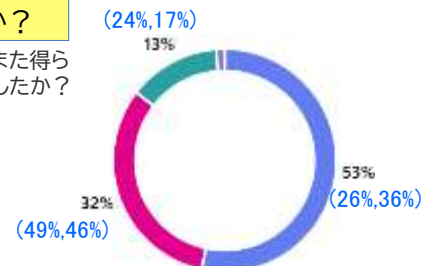
● とても関心が増した	75
● 関心が増した	56
● ある程度関心が増した	31
● 関心を持てなかった	3



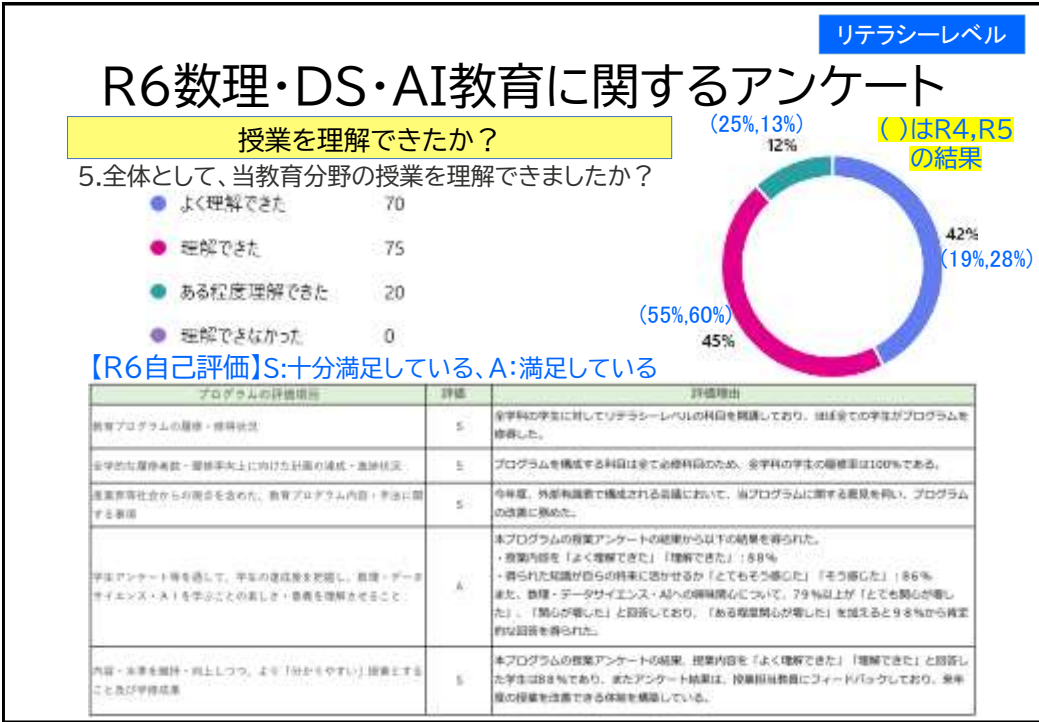
楽しかったか？ 将来に活かせると感じたか？

4.全体として、当教育分野の授業は楽しかったですか？また得られる知識が自らの将来に活かせると感じるがありましたか？

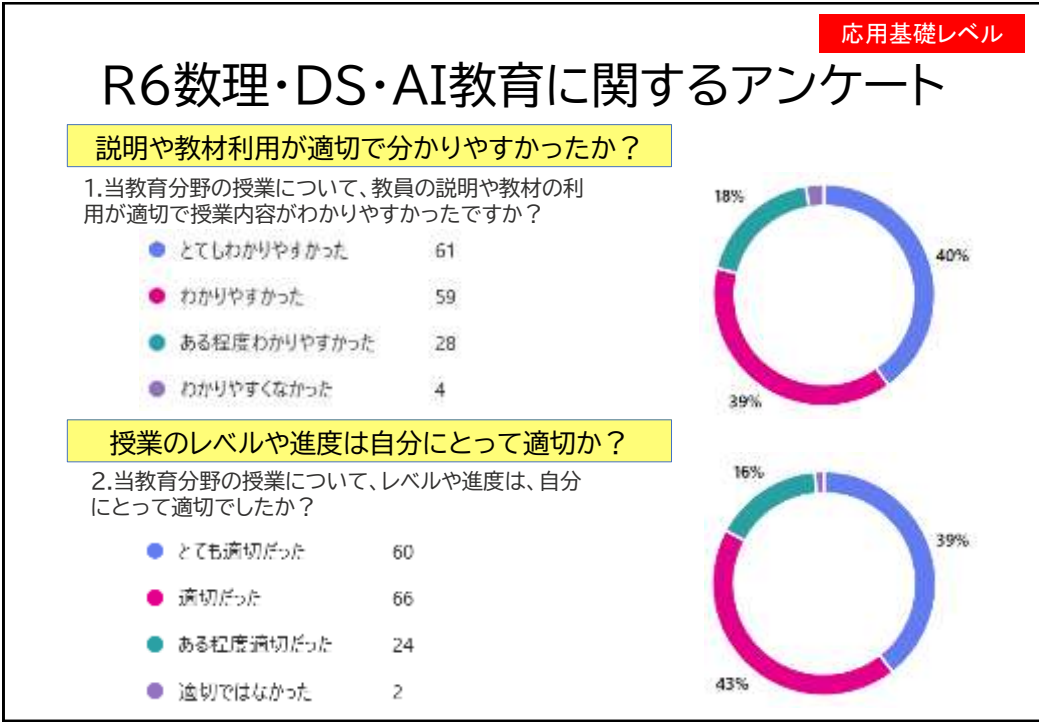
● とてもそう感じた	88
● そう感じた	53
● ある程度そう感じた	22
● そのように感じることはなかった	2



6



7



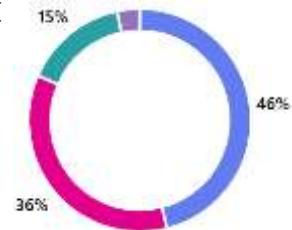
8

R6数理・DS・AI教育に関するアンケート

DS・AI教育分野への興味関心が増したか？

3.当教育分野の授業を受けることで、データサイエンス・AI教育分野に関する興味関心が増しましたか？

- とても関心が増した 70
- 関心が増した 54
- ある程度関心が増した 23
- 関心を持てなかった 5



楽しかったか？ 将来に活かせると感じたか？

4.全体として、当教育分野の授業は楽しかったですか？また得られた知識が自らの将来に活かせると感じるがありましたか？

- とてもそう感じた 69
- そう感じた 57
- ある程度そう感じた 19
- そのように感じることはなかった 7



9

R6数理・DS・AI教育に関するアンケート

授業を理解できたか？

5.全体として、当教育分野の授業を理解できましたか？

- よく理解できた 55
- 理解できた 69
- ある程度理解できた 25
- 理解できなかった 3



【R6自己評価】S:十分満足している、A:満足している

プログラムの評価項目	評価	評価理由
教育プログラムの提供・修習状況	S	全学科の学生に対して応用基礎レベルの科目を開講しており、全学生がプログラムを履修し、94%の学生がプログラムを修得した。
全学的な履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	S	プログラムを構成する科目は全て必修科目のため、全学科の学生の履修率は100%である。
産業界等社会からの要望を踏まえた、教育プログラム内容・手法に関する事項	S	今年度から実施するプログラムであり、今年度の実施結果を来年度の外部評価で検証される会議において、意見を伺う予定である。
学生アンケート等を通して、学生の達成度を把握し、数理・データサイエンス（A）を学ぶことの楽しさ、意義を理解させること	A	本プログラムの授業アンケートの結果から以下の結果を得られた。 + 授業内容を「よく理解できた」「理解できた」：81% + 得られた知識が自らの将来に活かせるか「とてもそう感じた」「そう感じた」：83% また、数理・データサイエンス・AIへの興味関心について、82%が「とても関心が増した」、「関心が増した」と回答しており、「ある程度関心が増した」を足えると97%から肯定的な回答を得られた。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること及び学修成果	S	本プログラムの授業アンケートの結果、授業内容を「よく理解できた」「理解できた」と回答した学生は81%であり、またアンケート結果は、授業担当教員にフィードバックしており、来年度の授業を改善できる体制を構築している。

B:改善を要するが、対応策が立案され、対応に着手している。

10

V. 校内視察

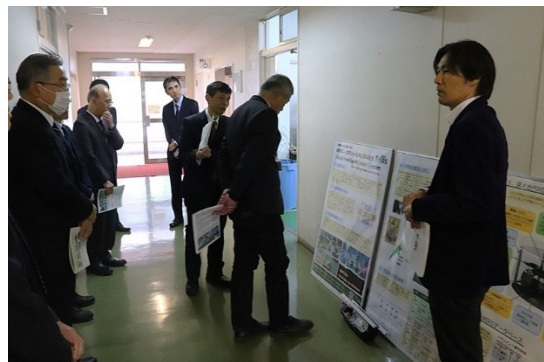
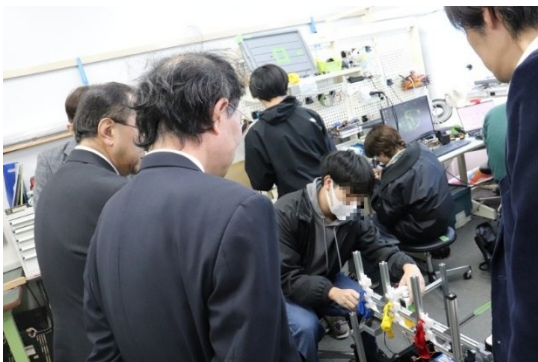


運営諮問会議委員による校内視察

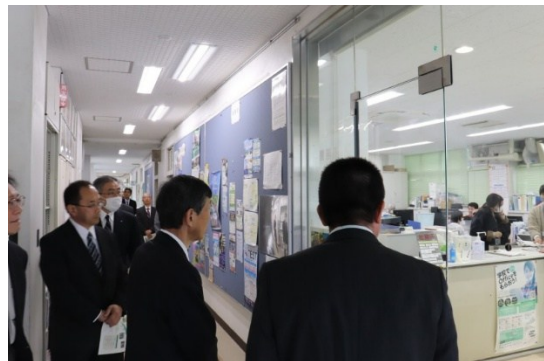
運営諮問会議に先立ち、アントレプレナーシップ教育の拠点となる起業家工房クリエイティブ・アトリエの「ワークスペース」、PBL教育の実施現場として電子制御工学科4年「電子機械設計・製作Ⅱ」の授業参観、保健室やカウンセラー室等の学生支援体制を集約した「学生支援ゾーン」を視察いただきました。



起業家工房クリエイティブ・アトリエ「ワークスペース」



授業参観（電子機械設計・製作Ⅱ）



学生支援ゾーン

VI. 會議規則



沼津工業高等専門学校運営諮問会議規則

(設置)

第1条 沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に本校以外の有識者による沼津工業高等専門学校運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）を置く。

(目的)

第2条 諮問会議は、本校の学校運営全般について、指導及び助言を行い、本校の健全な学校運営を支援することを目的とする。

(任務)

第3条 諮問会議は、次の各号に掲げる事項について、校長の諮問に応じて審議し、及び校長に対して助言を行うものとする。

- (1) 本校の中期目標、中期計画及び年度計画に関する重要事項
- (2) 本校の教育及び研究活動に関する重要事項
- (3) その他、本校の運営に関する重要事項

(組織)

第4条 諮問会議の委員は、人格識見が高く、かつ、本校の振興発展に関心と理解のある学外有識者で、次の各号に掲げる者のうちから、校長が委嘱する委員をもって組織する。

- (1) 大学等高等教育機関の関係者
 - (2) 産業・経済界の関係者
 - (3) 本校が所在する地域の関係者
 - (4) 本校の支援団体等の関係者
- 2 諮問会議は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

(議長)

第5条 諮問会議に議長を置き、その議長は委員の互選をもって充てる。

- 2 議長は、諮問会議の会務を総括する。
- 3 議長に支障があるときは、あらかじめ議長が指名した委員が職務を代行する。

(任期)

第6条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(事務)

第7条 諮問会議の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、諮問会議の運営に関し必要な事項は、諮問会議が別に定めるものとする。

附 則

1. この規則は、平成21年4月1日から施行する。
2. この規則の施行後、最初に委嘱された委員の任期は、第6条第1項の規定に係わらず平成23年3月31日までとする。

VII. 委員名簿



令和7年度沼津工業高等専門学校運営諮問会議委員

整理 番号	氏名	現職	規則根拠
1	塩尻 信義	国立大学法人静岡大学 理事(教育・附属学校園担当)／副学長	規則第4条第1項第1号委員 (大学等高等教育機関の関係者)
2	西山 充彦	富士通株式会社沼津工場 工場長	規則第4条第1項第2号委員 (産業・経済界の関係者)
3	小久保 光典	臼井国際産業株式会社 取締役	規則第4条第1項第2号委員 (産業・経済界の関係者)
4	赤堀 篤	静岡県工業技術研究所 沼津工業技術支援センター長	規則第4条第1項第3号委員 (本校が所在する地域の関係者)
5	三矢 康仁	駿東地区校長会 会長 (長泉町立長泉中学校長)	規則第4条第1項第3号委員 (本校が所在する地域の関係者)
6	河合 隆徳	沼津高専地域創生交流会 会長 (株式会社フジネット代表取締役社長)	規則第4条第1項第4号委員 (本校の支援団体等の関係者)
7	後藤 純緒	沼津高専同窓会 会長	規則第4条第1項第4号委員 (本校の支援団体等の関係者)

(敬称略)

運営諮問会議報告書

(令和8年2月発行)

沼津工業高等専門学校 総務課

〒410-8501 沼津市大岡 3600

TEL 055-926-5856

FAX 055-926-5700

URL <https://www.numazu-ct.ac.jp>